

令和5年3月15日

陸前高田市議会議長 福田 利喜 様

産業建設常任委員会委員長 鵜浦 昌也

令和4年度 管外行政視察報告

産業建設常任委員会の管外行政視察の概要を下記のとおり報告いたします。

記

- 1 期 間 令和4年7月27日（水）から  
令和4年7月28日（木）まで
  
- 2 行政視察地及び研修項目
  - (1) 東北大学大学院農学研究科  
貝毒について
  - (2) 宮城県亙理郡山元町（人口 11,818 人 R4.7.31 現在）  
6次産業化の取組及び民間企業（いちご屋燦燦園）との連携について
  - (3) 石巻南浜復興祈念公園  
現地視察
  
- 3 出席委員等 委員長 鵜浦 昌也 副委員長 伊勢 純  
委員 大和田 加代子 委員 小澤 睦子  
委員 伊藤 勇一 委員 大坂 俊  
随 行 局長補佐 山口 透  
書 記 高橋 純基
  
- 4 行政視察概要 別紙報告書のとおり

## 産業建設常任委員会行政視察報告

産業建設常任委員会は、宮城県仙台市、亶理郡山元町及び石巻市において行政視察を行いました。

### ○東北大学大学院農学研究科

貝毒について

#### 【概要】

近年、養殖漁家の間で大きな課題となっている貝毒の発生問題。ホタテやカキなどに発生すると、漁家は長期間にわたって出荷規制を強いられ、大きな収入減となります。

そこで、東北大学大学院農学研究科の西谷豪准教授らの研究グループが、二枚貝のまひ性貝毒の原因となる有毒プランクトン「アレキサンドリウム」に寄生し、細胞内に侵入して増殖することにより最終的に有毒プランクトンを消滅させる新種の寄生生物「アメーボフリア」を国内で初めて発見したことから、同大学を訪問して今後の課題などについて話を聞きました。

#### 【所感】

現段階での研究成果は、室内実験で行なったフラスコ内のもので、実際に海洋で試すには生物農薬として国の登録が必要とのことでした。今後は国に鋭意働きかけながら早期に登録され、漁協や漁家の協力を得ながら実際の海洋で実証されるよう協力していくことの必要性を感じました。

### ○宮城県亶理郡山元町

六次産業化の取組及び民間企業（いちご屋・燦燦園）との連携について

#### 【概要】

宮城県の沿岸部にある山元町は、東北一と言われるほどイチゴ産地を形成していましたが、東日本大震災の津波により栽培施設の95%が倒壊や冠水などの壊滅的な被害を受けました。しかし、営農再開と産地としての再出発、地域の復興などへの機運が高まり、平成24年度から復興交付金を活用し、栽培施設を団地状に整備するなど、産地復興に取り組みました。

今では六次産業化にも発展。イチゴを使った様々な加工品を産直施設で販売し、買

い物客から好評を得るなど、地域の活性化につながっています。

イチゴを生産販売している燦燦園は、イチゴ販売のほか、いちご狩り体験、ポット植え、スイーツ販売なども手掛け、六次産業の先進事例と言える取り組みを実践していました。

#### 【所感】

六次産業に限らず、産業化を図るためには、古くから知られた特産品があることが大きな強みになることを実感しました。山元町は以前からイチゴ産地として知名度が高く、イチゴ狩り体験などを通して観光にも生かしながら震災からの復興を歩んできたことが理解できました。

### ○石巻南浜復興祈念公園

現地視察

#### 【概要】

宮城県の石巻市は、東日本大震災の津波で約4千人の犠牲者が集中した国内最大の被災市町村となりました。中でも旧北上川河口部に位置する南浜地区（南浜町、門脇町、雲雀野町）は、津波の襲来とその後が発生した火災の延焼により500人以上が犠牲となりました。

この地に整備された復興祈念公園は、宮城県、さらには被災地全体の要となる復興祈念公園として、東日本大震災で犠牲になったすべての生命（いのち）に対する追悼と鎮魂の場として、さらに震災の記憶と教訓を後世に伝える拠点となるよう整備されました。

公園内のみやぎ東日本大震災津波伝承館は、県内の震災伝承施設などへ誘うゲートウェイ（玄関口）の役割を果たすことを目指して建設。リアルな津波の映像や被災者の証言などにより、津波から命を守るためには「逃げるしかない」ことを訴える映像をはじめ、県内の震災伝承施設や語り部活動を行う団体のほか、震災を契機に生まれた地域の復興に関する取り組みなどを紹介していました。

#### 【所感】

伝承館は津波の恐ろしさをはじめ、命を守ることの大切さを訴えている施設であることが十分に伝わる施設と感じました。また、震災当時の写真などとは別に、震災後の復興の様子を紹介するコーナーもあり、思わず「訪れてみたい」と感じさせるような工夫がありました。